参考様式B4（自己評価等関係）

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 3 年 2 月 24 日　　事業所名　風の子びれっじ空Kuu

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		スペース分け等構造化を進めている。密にならないような配置。	必要なスペースを設けているが、各スペースの使用が重なることがあり、ご利用の方によって狭く感じられることがある。使用項目毎にスペース分けを行う。
	2	職員の配置数は適切である	○		適切に配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	事業所内に段差はない。高さのある水道使用時はステップを使用している。	入口手前に段差があり、簡易スロープを設置。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		目標を立て社内で振り返りを共有している。	目標内容や振り返り方法を見直していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		評価表・活動アンケートを実施している。	ご意見を頂いた内容に関して、変更した点については書面・事業所メール・おたより等で周知していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		HPの利用者の声ページにて公開している。	公開した際に、事業所メールにてお伝えしていく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		客観的に評価して頂けるよう検討。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		3ヶ月に1回社内研修・eラーニング研修・事業所研修実施。社外研修参加。	コロナ渦で中止された研修もあったが、オンライン研修等参加。各職員研修機会をつくっていく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		ご家族・学校・実習先と連携。スモールステップで計画を作成している。定期的アセスメントを更新している。	より本人の意向に基づいた計画の作成を目指していく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		社内で標準化したアセスメントツールを使用している。ご利用以前の様子が分かる項目を追加。	より本人の全体像が分かるよう、項目を見直していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		チーム内で意見を出し合い立案している。	ご利用の方、活動アンケートを参考に内容を活性化させていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		選択制を導入している。メイン活動を数カ月おきに変更してしている。ICTを利用した活動も開始している。	より様々な経験をして頂けるよう、新しいプログラムを立案していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		個別の課題を共有シートに記入実施している。	課題の見直し・補充、チェック方法や実施方法について、統一できているか再確認する。適切な課題か定期的に見直していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	○		各曜日の集団活動、個別課題や作業等組み合わせて作成している。	より本人の強みを伸ばしていけるような計画を作成していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		活動内容や個別課題についてついて打合せを行っている。	伝達漏れがないように、共有内容を明確に記入・確認者のチェックができるようにツールを使用する。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		日報や連絡ノート、記録ノートで共有している。	送迎等で翌日以降の話し合いになるが、時間を設定して実施。その他職員への伝達漏れがないよう、共有内容を明確に記入・チェックする体制をつくる。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		集団活動・個別療育についてついて記録している。行動によって、チェック表で記録を実施。	時間や回数等、明確に記録していく。必要な方の個別のチェック表を使用し記録を検証を広げていく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的に実施している。アセスメント・リスクアセスメントの更新も行っている。	個別ファイルやチェック表の内容を見直し、より正確に評価できる体制を整えていく。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	○		集団活動・イベント・個別療育で実施している。	定期的にガイドラインを確認共有する。ガイドラインに則った支援を継続していく。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		管理者及び児童発達支援管理責任者が参加。他担当職員の意見も共有している。	共有内容に漏れがないよう、引継ぎシートを見直していく。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		学校・事業所での様子を共有している。見学会や体験会にも積極的に参加している。	より詳細な内容も共有できるようにツールを使用していく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				対象の方がいないが、必要あれば体制を整えていく。

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		児童発達支援事業所との情報共有を実施。	より詳細に連携を進めることができるよう、引継ぎフォーマットを見直していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		特性や事業所での様子を共有。実習での様子も情報を頂き日々の支援にもいかしている。	より詳細に連携を進めることができるよう、引継ぎフォーマットを見直していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		今年度センターの研修に参加する機会がなく、研修以外でも助言を頂けるよう専門機関とのつながりを広げていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	コロナ渦のため機会を設けることができなかった。屋外活動では地域にでて交流する機会を少し設けている。	コロナ以降、地域のお子さんと交流できる機会をつくっていく。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している		○	療育支援事業所等のパンフレットに参加している。以前は、研修等参加。	療育支援事業所とのネットワークを広げ、イベントや事例検討等地域で協力して支援力を高めていく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		面談・電話・送迎時にお話させて頂いている。	ゆっくりお話しできる面談の機会を増やしていく。お越し頂きやすいような環境をつくっていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている		○		ペアレントトレーニングの研修に参加、事業所内で実施する機会をつくっていく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		変更時は書類、事業所メールおたより等でお伝えしている。	適宜繰り返し周知を行っていく。HP等でも確認できるようにしていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		面談・電話・送迎時に保護者様からお話しを頂き、必要な支援につなげている。	より細かく助言や支援ができるよう、相談技術を高めるため研修を実施していく。
	32	保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	コロナ渦のため開催できず。	コロナ以降、参加して頂きやすいような内容・仕組みづくりを検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情担当責任者が対応、社内での共有している。対応について保護者様に報告を行っている。	定期的に周知を行っていく。ご意見を頂きやすいような環境をつくっていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		半年に1回社内おたより発行。事業所メールを使用した連絡体制にて情報発信を行っている。	HPのブログやSNSの更新頻度を増やし、情報発信を進めていく。
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報の管理・情報発信時の画像許可等定期的に確認している。	取り扱い注意点について、定期的に見直し改善していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		個々に合わせた方法、手段を用いて情報伝達を行っている。	今後、ICTも活用して個々に合わせた連絡手段を用いて情報伝達を行っていく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		コロナ渦のため開催できず。屋外活動では地域に出る機会をつくっている。	コロナ以降、以前と同様にイベントを実施していく。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○		マニュアルの改訂、周知を行っていく。定期的な周知期間に実施していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		月1回避難訓練を実施している。できる限り徒歩訓練も行っている。	様々なシュミレーションを仮定して実施していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		社内・eラーニング・社外研修機会を設けている。	事業所内職員間で、不適切な支援・本人主体の支援について話し合う機会を定期的につくっていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		身体拘束ではなく、別のアプローチから支援を行う。	他害や突発的な行動への対応等共有を行う。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている				対象の方はいないが、必要あれば体制を整えていく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		報告書を都度記入・共有している。社内で事例を共有。	定期的に見直し、事前に防ぐ体制を整えていく。